

平成27年7月6日

関係各位

鹿児島県工業技術センター  
所 長 中村 俊一

鹿児島県工業技術センター平成27年度研究成果発表会の御案内

皆様には、日頃から当センターの事業活動に御支援、御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、当センターでは、研究成果を広く県民の方々に広報・普及し、県内産業の活性化や技術向上に資するため、標記発表会を下記により開催いたします。

つきましては、御多忙とは存じますが、是非御参加くださるようお願いいたします。また、関係の方々へも併せてお知らせください。

お申込みは、当センターのホームページまたは別紙参加申込書によりお願いいたします。

記

- 1 開催日時 平成27年7月23日（木）13:15～16:10 （受付開始 12:30）
- 2 内 容 同封のプログラムを御覧ください。
- 3 会 場 鹿児島県工業技術センター（霧島本庁舎） 大会議室
- 4 参加費 無料
- 5 参加申込み FAXまたは下記URLからもお申込みできます。

<http://www.kagoshima-it.go.jp/>

（お問い合わせ先）

〒899-5105 霧島市隼人町小田1445-1

鹿児島県工業技術センター 企画支援部 小幡 透

（TEL 0995-43-5111 FAX 0995-64-2111）

平成27年 月 日

鹿児島県工業技術センター企画支援部 宛  
(FAX : 0995-64-2111)

参加申込書

平成27年7月23日(木)開催の研究成果発表会に参加します。

- ・ 団体名等 : \_\_\_\_\_
- ・ 電話番号 : \_\_\_\_\_
- ・ F A X : \_\_\_\_\_
- ・ E - m a i l : \_\_\_\_\_
- ・ 参加者氏名 : \_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

【お問い合わせ先】  
〒899-5105  
鹿児島県霧島市隼人町小田1445-1  
鹿児島県工業技術センター企画支援部  
担当 小幡  
TEL 0995-43-5111  
E-mail info@kagoshima-it.go.jp  
http://www.kagoshima-it.go.jp/

(個人情報の取扱い)

御記入いただきました個人情報につきましては、当センターの業務にのみ使用します。



## 鹿児島県工業技術センター

## 平成27年度 研究成果発表会

と き : 平成27年7月23日(木) 13:15~16:10  
 ところ : 鹿児島県工業技術センター 霧島本庁舎 (大会議室)

## プ ロ グ ラ ム

## ■ 受付

12:30~

## ■ 開会

13:15~13:20

あいさつ

所長 中村 俊一

## ■ 口頭発表 第1部

13:20~13:55

線虫 *C. elegans* の寿命延長効果を指標とした機能性食品の評価

13:55~14:15

タブレット鍛造による自動車用機構部品の開発

14:15~14:35

光特性測定システムの構築

## ■ ポスターセッション (休憩)

14:35~15:05

13テーマ

## ■ 口頭発表 第2部

15:05~15:25

枠組壁工法材への鹿児島材活用のための基礎評価と生産システムの検討

15:25~15:45

スギ板材を活用した構造用面材の開発

15:45~16:05

本格焼酎における酵母混合仕込みの開発

## ■ 閉会

16:05~16:10

あいさつ

副所長 新村 孝善

※ ポスターセッション時に、当センター所有の特許の紹介を行います。

※ 閉会后、ポスター発表担当者がポスター会場に常駐します。発表内容に興味を持たれた方は意見交換ができます。

■ 口頭発表

第1部

発表時間	発表テーマと概要	発表者
13:20 ～13:55	<p><b>■線虫 <i>C. elegans</i> の寿命延長効果を指標とした機能性食品の評価</b></p> <p>食品の機能性評価は主に <i>in vitro</i> で行われますが、生体内での効果の実証には <i>in vivo</i> の生物試験が必要です。 <i>in vivo</i> 試験でマウスなどの代替となる生物に線虫の1種、 <i>Caenorhabditis elegans</i> があります。本発表では、線虫の寿命延長効果を指標とした機能性食品の <i>in vivo</i> 抗酸化評価方法について検討した結果を報告します。 (ポスターセッションあり)</p>	神奈川県産業技術センター 瀬戸山 央
13:55 ～14:15	<p><b>■タブレット鍛造による自動車用機構部品の開発</b></p> <p>自動車用機構部品の精密打ち抜き加工では、高精度で非常に滑らかな断面を有する部品が得られます。しかし、さらなる競争力向上のためには材料廃棄率(最大90%)の低減が課題でした。そこで、本研究では独自のタブレット鍛造法を考案し、材料廃棄率を革新的に低減(約1/9)することができました。 (ポスターセッションあり)</p>	(株)秦野精密 瀧脇 健二
14:15 ～14:35	<p><b>■光特性測定システムの構築</b></p> <p>LEDモジュールや照明機器等の光特性(輝度、照度、全光束、配光、スペクトル等)を測定する装置を導入し、測定環境を構築しました。他県公設試との相関確認の結果、遜色ないデータが取得できることを確認しました。 (ポスターセッションあり)</p>	生産技術部 上園 剛

第2部

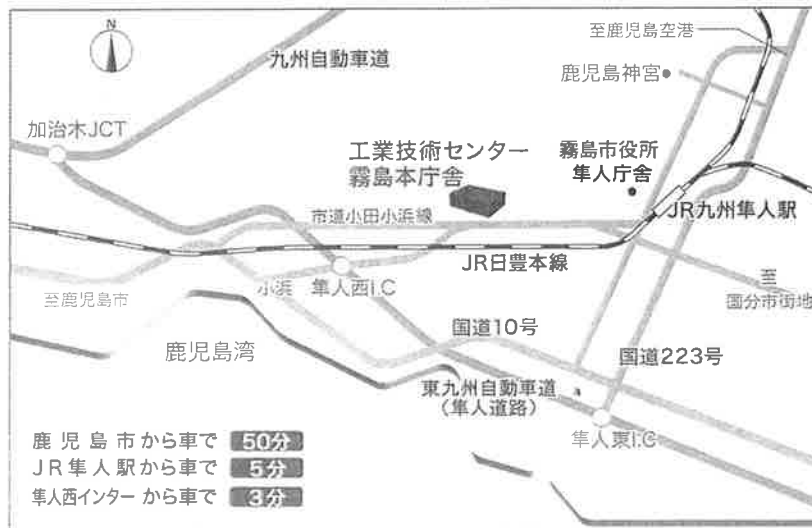
15:05 ～15:25	<p><b>■枠組壁工法材への鹿児島材活用のための基礎評価と生産システムの検討</b></p> <p>現在、枠組壁工法建築物に使用される用材のほとんどが輸入材です。そこで、弊社では用材の国産材化と鹿児島県産スギ材の需要拡大を図るために量産専用ラインを整備しました。今回、量産化を可能とする生産システムの検討や国際競争を可能とするスギ材の品質評価を行いましたので報告します。 (ポスターセッションあり)</p>	(株)さつまファインウッド 新村 和也
15:25 ～15:45	<p><b>■スギ板材を活用した構造用面材の開発</b></p> <p>県産スギ板材を圧縮実(さね)接合によりパネル化した構造用面材を開発しました。この面材を木造建築物の水平構面に用いた場合の構造性能を検証しました。その結果、荷重が作用した際に板材接合部に摩擦力が発生することで、鉛直荷重及び水平荷重に対する剛性、耐力ならびに減衰性が向上することを確認しました。 (ポスターセッションあり)</p>	地域資源部 福留 重人
15:45 ～16:05	<p><b>■本格焼酎における酵母混合仕込みの開発</b></p> <p>本県には100を超える酒造場があり、それぞれが個性豊かな焼酎を製造しています。この多様な銘柄数を維持するために製法の多様化は重要です。今回、従来より行われている単一酵母による醸造に対し、複数の酵母を同時に使用する混合仕込み法を確立し、各酵母の特徴を持ち合わせた焼酎ができるようになりました。 (ポスターセッションあり)</p>	食品・化学部 安藤 義則

## ■ ポスターセッション

口頭発表を含む13テーマについて、パネルと展示物により担当者が説明します。

発表時間	発表テーマと概要	発表者
14:35 ～15:05	<p><b>◆2段ろくろ開口装置による洋装化織物の研究</b>                      現在の大島紬業界は、大島紬の緋織り技術を応用して洋装化への展開を図っていますが、大島紬の生地を転用したものづくりのため、十分な商品展開ができていません。一方、2段ろくろ開口装置を備えた織物は、多様な組織の織物が織れるので、大島紬の技術を活かした洋装化製品の開発に取り組みました。</p>	企画支援部奄美市駐在 福山 秀久
	<p><b>◆大島紬光輝性緋の研究</b>                      大島紬の緋配色に「並置加法混色法」を取り入れて、光輝性緋による白大島紬2点、泥大島紬2点を試作した結果、経緯総緋が最も輝度が高くなりました。また、金糸絹糸、構造発色繊維（モルフォ繊維）、孔雀羽入り繊維の活用で、光輝性布を開発し小物（バッグ）を試作しました。</p>	企画支援部奄美市駐在 徳永 嘉美
	<p><b>◆シラスを用いた凝集剤及び凝集方法の開発</b>                      シラスに酸を作用させて開発したシラス凝集剤に無機系凝集剤を組み合わせ凝集性を比較検討しました。家畜糞尿や米ぬかなどの懸濁液を凝集させたところ、無機凝集剤だけよりも沈降速度が速いことが確認できました。シラスの粒子の分だけ凝集物質が重くなったためと考えられます。</p>	食品・化学部 向吉 郁朗
	<p><b>◆静電気放電発生箇所可視化システムの低コスト化技術の開発(その1)</b>                      「静電気放電発生箇所可視化技術の研究(H23～25)」で確立した要素技術をもとに、可視化装置の低コスト化に関する研究開発をH26～H27の2カ年で行っています。使用する計測器の性能に伴う放電位置の算出誤差領域を理論的に明示する方法を考案し、放電の発生原因を特定し易くすることができるようになりました。</p>	生産技術部 尾前 宏
	<p><b>◆工具温度測定による切削加工監視技術の開発</b>                      「赤外線カメラを用いた切削加工監視技術の開発(H24～25)」で構築した赤外線カメラによる工具温度測定システムを用い、切削加工条件を変化させて工具温度および切削抵抗を測定しました。その結果、切削加工条件と工具温度および切削抵抗の間には密接な関係があることがわかりました。</p>	生産技術部 南 晃
	<p><b>◆メガソーラー用の軽量で低コストなブラケットの開発</b>                      平成25年に完成した鹿児島市七ツ島のメガソーラーパネル固定用ブラケットの設計において、技術支援としてCAE解析及び強度試験を行いました。                      その結果、従来品に比べ同等の強度を保ちつつ、約3割の軽量化をすることが可能となりました。</p>	生産技術部 南 晃
	<p><b>◆木質チップの簡易含水率測定技術の確立</b>                      様々な含水率において木質チップの容積密度および静電容量を測定しました。その結果、含水率の低下に比例して、容積密度、静電容量ともに低下することが確認でき、その相関については容積密度、静電容量ともに高い値となりました。</p>	地域資源部 中原 亨

## 交通のご案内



## 会場と駐車場のご案内



## ポスターセッションの様子



## お問い合わせ先

〒899-5105

鹿児島県霧島市隼人町小田1445-1

鹿児島県工業技術センター企画支援部

TEL 0995-43-5111 FAX 0995-64-2111

E-mail: info@kagoshima-it.go.jp

参加お申し込みは

当センターのホームページから可能です。

<http://www.kagoshima-it.go.jp/>